

平成24年5月8日

第98号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



高尾山頂から（東京都八王子市）
（撮影者：森林保護委員 宮入 芳雄）

森林共同施業団地の推進

静岡森林管理署

私と国有林「理想的な里山を目指して」

千葉県森林インストラクター会 会長 小池 英憲 氏



『森林共同施業団地の推進』

「富士山西麓地域森林整備推進協定について」

静岡森林管理署

静岡森林管理署では、平成24年2月10日に富士宮市、富士宮市上井出財産区、静岡県富士農林事務所の4者で「富士山西麓地域森林整備推進協定」を締結しました。

本署では初めての取組となった協定の内容等について紹介します。

○締結に至った背景

今回の協定は、平成22年9月に静岡県知事、独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センター関東整備局長、関東森林管理局長の3者で交わした「ふじのくに静岡の森林・林業の再生に関する覚書」に基づいています。

この覚書は、ふじのくに静岡の森林・林業の再生に向けて、

- 1 森林資源の循環利用を促進するため、森林共同施業団地の設定や効率的な路網の整備等により、利用間伐を促進し、木材安定供給体制の確立を目指すとともに、
- 2 森林が持つ多面的機能を十分に発揮させ、それを将来に継承していくため、針広混交林化や長伐期化、シカ等野生動物被害対策などの森林の整備・保全に取り組み、多様な豊かな森林づくりを進めることとしています。

現在、富士山地域では、これまで未利用だった国有林のウラジロモミの人工林で景観に配慮した間伐を実施し、山土場で製紙用チップ材などとして販売しており、今後、民有林

の林地残材も含めて、供給量の拡大が期待されます。

また、当地域ではニホンジカの生息数が増加していることから、民有林と国有林が連携して被害防止対策に取り組む必要があります。

さらに、当該地域は富士山世界文化遺産の申請区域に入っており、森林景観の整備に連携して取り組むことが必要になっていきます。



協定調印式

○協定の内容

協定では、富士山西麓地域の森林・林業の再生に向け、民有林・国有林が相互に連携、協力して取り組むため、森林の整備に関する事業、木材の安定的供給に関する事項及びシカ等の野生動物被害対策等を定め、協

定者が連携して安定的かつ効率的な林業経営の基盤づくりと森林施業を推進することを目的としています。具体的な内容は次のとおりです。

1 実施計画の対象とする森林面積

実施計画の対象となる協定対象地域の森林面積は、3,933ha、うち本協定に基づき森林整備を行う面積は、588haとされています。(表1参照)

表1 森林面積

(単位:ha)

区分	森林面積	森林整備面積
総数	3,933	588
富士宮市有林	290	57
財産区有林	313	32
国有林	3,330	499

注) 森林整備面積は、次項の森林整備事業等のうち間伐等の実施面積である。

国有林の森林面積には分収育林及び分収造林は含まないものとする。

2 実施する事業

本協定に基づき、協定期間（平成24年2月～28年3月）で予定している主な森林整備事業は、表2のとおりです。

表2 森林整備事業等

区 分	間 伐 等 (ha)	木 材 生 産 (m ³)	路 網 整 備 (m)
総 数	588	34,394	860(6,562)
富士宮市有林	57	1,819	660
財産区有林	32	2,100	—
国 有 林	499	30,475	200(6,562)

注) 間伐等とは、利用間伐、保育間伐、本数調整伐を含むものとする。

路網整備の()書は、外書で改良によるものとする。

なお、事業量については、事業の

中期的な視点を確保するため、民有林の富士地域森林計画及び国有林の地域別の森林計画（富士森林計画区）の期間（平成33年3月末）のうち5年間の見込み数量としています。本協定期間以降については、本協定の更新に関する協議と併せて、決めることとしています。

3 協定のポイント

(1) 間伐材等の安定供給

民有林と国有林が連携して、現地に適合し、かつ、利用可能な間伐材を低コストで搬出できる作業システムを検討及び導入を推進し、作業の効率化及び連携した出荷により木材の安定供給を図ります。なお、当地域の国有林では平成24年度には117万本の間伐と2,950m³の木材生産を行う予定です。

(2) 低質材の利用拡大

林地残材及び被害木等の低質材の利用拡大については、相互に連絡調整を図りながら進めることとしています。当該地域の国有林では、平成24年度には、1,350m³のウラジロモミ間伐材の販売を予定しています。(3) 高性能林業機械の利用促進 緩傾斜地であることから、特に作業路網の整備と併せた高性能林業機械等について、相互で利用の促進を図ることとしています。



ウラジロモミのシステム販売 (チップをトラックに積む様子)

(4) シカ等野生動物の被害対策への取組

シカ被害防止対策に係る既設の協議会等との連絡調整を図り、被害防止対策を進める。シカ被害防止対策について、必要に応じ、連絡会議等を開催し、効果的かつ効率的な被害防止対策の検討を行う。シカ被害防止対策の取組については、協定区域内だけでなく、協定区域外についても関係機関等と連絡調整を図り進める。既に3月には、連携して、くくりワナによるニホンジカの捕獲作業を実施しました。



協定当事者によるシカ被害防止対策の共同作業の様子 (くくりワナの設置)

協定内容の具体化は平成24年度から本格的に始動しますが、民有林・国有林を通じての低質材の有効活用やシステム販売等による木材の安定供給などを進めることで、富士山の豊かな森林の保全を図り、もって世界文化遺産の登録にも寄与できるよう取り組んで参ります。



◎平成23年度活動実績

平成23年度の各種行事も局指導普及課や東京事務所をはじめとした関係機関のご指導やご支援により無災害で実施できました。厚く御礼申し上げます。参加した員数は次のようになりました。

森林カレッジをはじめとする「公募イベント」では、14回、4百人の参加を得ました。小中学校を対象とした依頼イベントでは、参加校46校、延べ2千人の児童生徒が参加しました。また、各種団体からの依頼イベントでも12回、3百人の参加がありました。

そのほか、多目的ホール愛林館の展示に来館者3千人。センタークラフト室・展示室の来館者が1万2千人。日影沢キャンプ場の利用者は1万人でした。森林インストラクター東京会のふれあい推進委託事業や地元イベント参加行事での参加者は1千人でした。総計では約3万人となりました。これらの機会を通して、林野庁の組織運営や森林・林業を普及啓発して

参りました。平成24年度もなお一層国民の皆さんへの情報発信と施設の有効利用に邁進して参ります。次に、脇役でもイベントを盛り上げ、参加者に感動を生む小道具の1つを紹介し、広範囲にわたる普及を期待します。

◎未利用材を生かした丸太トーチ

当センターでは、高尾山の風倒木や高齢級間伐で発生する端材丸太を活用した丸太トーチを、イベント時に実演し、手短な木材の活用方法として紹介しています。特に寒い時期の屋外イベント時に、お茶を沸かしたり、灯りや暖をとるのに重宝し好評を得ています。

1 丸太トーチの作り方

作り方は極めて容易です。ある程度乾いたスギやヒノキの丸太を使う場所・目的に応じた長さに切ります。次に木口からチェーンソーで十文字に切れ目を入れます。もちろん有資格者に作業をお願いして慎重に行います。片方の木口面は使用後の用途を考えて、ある程度の厚みを切り残します。火は十文字の切れ込みの隙間を通る空気の流れで簡単に燃えるのです。隙間は、チェーンソーの刃の切りしろ

幅が最適です。



切れ目を入れた丸太

2 使い方

極めて簡単です。切れ目を入れた木口面を上にして、たき火の熾き炭を十文字の合わせ目に置きます。それだけで不思議なことに簡単に着火して少しずつ下の方に燃えていきます。下から上に炎が移るのではなく、段々に上から下に燃え移るのです。燃えている時間は太さと長さにもよりますが、太さ30センチの長さ80センチ丸太が3時間程は燃え続けます。この間、ヤカン

を置いて湯を沸かすもよし、鍋やフライパンで料理をするもよし（火加減は手加減で）、闇が深まれば灯明の役割を發揮します。しかも、燃焼中は地面に燃えながら落ちることもなく、熱も地面に伝わらず、場所もとりません。消し炭などの後片付けがいりません。燃え方は、切れ目に沿った部分だけが燃え広がり、最後は中心部へ吸い込む空気の速度が落ちることによって燃焼が止まってしまいます。最終的には4本の脚状の外縁部と切れ目を入れなかった木口部分が燃え残ります。



燃焼中の丸太

4 木製スツールに再利用

使用後の丸太トーチは、木材特有の消し炭が脚の部分や末口部分に残っています。この部分をナタやノミで削り落とし、木口や脚部を電動サンダーや紙やすりで滑らかに仕上げるとオリジナルの木製スツールに変身します。炭の焦げ目や根張りや節など、焼け残った部分の個性豊かな野趣あふれる木製スツールに変わります。焼け残りの節の部分や脚の合わせ部の曲線が微妙に現れ、味わいが出ます。

特に、根張りのある丸太は、元口から切れ込みを入れると脚部が外へ拡がり安定感が出ます。スギ・ヒノキの木香も残り、お手製の家具として、末永く炭素を蓄えたまま使うことになりやすい。各地のイベントなどで手軽なアウトドアグッズとして普及してみませんか。



完成した木製スツール



3月9日、都内のホテルにおいて国際森林年記念「第15回森林は友達! 作文コンクール」の表彰式が行われました。

この作文コンクールは、旧東京分局管内（茨城県から静岡県までの1都6県）の森林管理署、森林管理事務所、高尾森林センター等が行った「森林教室・体験林業」に参加した小学4～6年生を対象に、感じたことを作文にすることによって、森林・林業に対する理解や関心をより一層深めてもらうことを目的に、関東森林管理局東京事務所と（社）東京林業土木協会が共催して、毎年度行っているもので、今回は、21団体（小学校19校、団体2）から1,533名の応募がありました。

昨年（2011年）は、国際森林年として世界中で森林の重要性についての認識を高める活動が行われたことから、この作文コンクールも国際森林年の関連行事として行いました。

最優秀賞には、「このままでいいのかな?」と題して、東日本大震災の巨大津波で大きな被害を受けた海岸林が、地域によっては、津波の被害をくい止めていた事実を知り、それをきっかけに、森林と人との関わりについて興味を持ち、調べていく中で気づいたこと、感じたこと等を素直に自分の言葉で書いた相模女子大学小学部4年生の藤澤ひろみさんが受賞しました。

この作文コンクールは、今後も次代を担う子供たちに森林・林業がいかに重要なものであるかを考える場として続けていくことをしています。



最優秀賞(林野庁長官賞)授与



幹部の紹介

5月1日付け()は前職

森林管理署支署長

▽福島森林管理署

白河支署長

相原 慎二

(群馬森林管理署次長)

私と国有林

理想的な里山を目指して

千葉県森林インストラクター会 会長 小池 英憲

私が所属する、千葉県森林インストラクター会（略称：FIC・フイツク）は千葉県に在住する方を中心として平成6年に創設され、現在126名の会員登録があります。私達は多彩な森林の持つ魅力や不思議さを紹介すると共に、森林や林業の仕組みや機能、また自然の大切さを皆様にお伝えする活動を千葉の森を中心に行っています。

勤めていましたので、国有林をお借りして樹木の生産を行っていました。その関係もあり年2回行われる植樹祭に参加し苗木の植え方、署員の方が森を愛し木を大切に作る姿勢を学びました。国有林とのお付き合いが長く、親しみを持っていましたので平成15年に「ふれあいの森」としてFICと協定を結ぶことが出来たときは喜びがひとしおでした。その後活動を環境教育の分野まで広げるべく平成22年度に「遊々の森」制度の締結を行いました。



遊々の森のヤマザクラ



作業前の集合写真

・国有林との出会い
私自身の国有林との出会いは古く30年前ごろで植木を生産する会社に

FICの国有林での活動

現在、千葉県君津市馬登に「ふれあいの森」「遊々の森」の制度で約3畝の薪炭林の跡地を利用させて頂いています。当地は鹿野山の北西斜面に位置し馬登地区が薪炭林として利用していた跡地で、100年生のヤマザクラが多く残り、植生の豊かな素晴らしい緩斜面です。



バイオネスト(発生材処理)

FICの定期的な活動は月に1回会員の研修を目的に、裸足で歩ける里山を目標に笹刈り、枝打ち等の整備を行っています。作業にかかる前には山の神に安全祈願を行い、作業は枝条等を「持ち出さない」「持ち込まない」を基本理念として工夫しながら作業していま

す。作業と平行して植生調査・照度調査を行い理想的な管理方法を目指しています。

「遊々の森」を利用させていただくようになってからは隠れ家作り、ハンモック遊び、ブランコ、木登り等子ども達の森林教室を年1回開催しています。関東圏から近い場所ですから、多くの方が当地に来てくれることを願って里山管理に励んでいます。



ハンモック遊び

森づくりの最前線

中越森林管理署 湯沢森林事務所 森林官 渡邊 慶太



苗場山を背に地元ツアースキーガイドと記念撮影

私が勤務している湯沢森林事務所は、新潟県南部の湯沢町に位置し、群馬県や長野県との県境付近の約13,800㍍の国有林を管轄しています。

湯沢町は川端康成の小説「雪国」の舞台となった温泉観光地（越後湯沢温泉）であり、四季を通じて豊かな自然に恵まれた町です。国内有数のスキーリゾート地でもあり、国有林内がコースとなっているスキー場は8箇所もあります。湯沢町内の国有林は隣接している三国森林事務所と合わせると町面積の約7割を占めています。

また、管内には、百名山の一つである苗場山（標高2145㍍）や魚野川の源流域である仙ノ倉山（標高2026㍍）など2000㍍前後の谷川連峰の山々があります。その山々を背に国有林は広がり、大部分が上信越高原国立公園となっており、登山やスキー、森林浴等の保健休養に利用されるレクリエーションの森に指定されている区域も少なくありません。

管内の人工林の割合は少しですが、スギ等の造林地があります。国内有数の豪雪地帯であることから、雪の重みやなだれ等の被害を受けている場合もありますが、たくましく育っている林もあります。越後のスギは厳しい環境のもとで育つので、成長のスピードは他の地域より遅いものの、年輪が詰まるため、丈夫な材になります。また、大部分のスギは斜面に植えられ、重たい雪に引っ張られて根元が曲がっている林が多いです。この部分は雪の重みに耐え、スギの樹幹を直立に支えているので、大変丈夫な部位となっています。しかし、曲がりの性質上、加工等が大変なため、材木としてはほとんど利用されていません。この根曲がりしている部位は自然に戻されています。昔は、屋根を支える梁に使ったり、最近では、根曲がりベンチやポイラー等の燃料材料（ペレット）として林地から搬出している場合もありますが、コスト的に厳しい現実もあります。

私は、三国森林事務所管内の仕事も併任しており、常用作業員と臨時職員を合わせた3名で、毎日、山を駆けずり回っています。か



公売するために集積されたスギ丸太



根曲がりしたスギ立木

なり広い範囲となるので隅々までというのは難しいのですが、情報提供という面では、地元住民、地元役場、地元業者、スキー場関係者、電力会社等の方々のご協力を得ることができ、非常に助かっています。

国有林を現場で管理していく仕事のなかで、森林の整備や保全を第一に考えながら、地元の方々から国有林に求められているニーズにできるだけ対応していくよう努めていきたいと思えます。



新緑のなか雪解け水が流れる清津川

管内のいちおしスポット



箱根駒ヶ岳と ヒメシヤラ群落

■ 東京神奈川森林管理署 http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/tokyo_kanagawa/index.html
 〒254-0046 神奈川県平塚市立野町38-2
 TEL:0463(32)2867(代表) FAX:0463(32)2868

箱根の芦ノ湖周辺には、国内有数の観光地として多くの方が訪れています。また、箱根は多くの植物があることでも知られています。



駒ヶ岳頂上からの遠望(写真①)

国道1号線の北西にある駒ヶ岳には、駒ヶ岳ロープウェイがあるため誰でも簡単に山頂まで上ることができます。駒ヶ岳山頂からは、眼下に芦ノ湖、芦ノ湖西岸の人工林の先には、三島市・沼津市の町並みと駿河湾を遠望出来ます(写真①)。もちろん、富士山は目と鼻の先に見えます。山頂からは、神山や大湧谷などに向かって、歩道が整備されていますので、ハイキングコースとして多くの方に利用されています。



頂上付近のヒメシヤラ(写真②)

そのコースのうち、駒ヶ岳山頂から防ヶ沢歩道を下るコースの途中には、生育箇所が限られているハコネコメツツジの保護林があります。白く可憐な花が6月から8月にかけて咲くのですが、地面を這うように生えていますので歩道から見ることは難しいかも知れません。ハコネコメツツジの保護林を過ぎますと、芦ノ湖に向けた斜面の林の中に赤い肌をしたヒメシヤラの群落が見え始めます(写真②)。

ヒメシヤラは、神奈川県指定の天然記念物に指定されている、「箱根神社境内のヒメシヤラの純林」があるなど、箱根地域一帯に生育しているのですが、この付近には集中して群落があり、ヒメシヤラがこのようにまとまって生育するのは大変珍しいため、周辺の122ヘクタールをヒメシヤラの保護林としています。ヒメシヤラはナツツバキより一回り小さくて白い花が6月から7月にかけて咲きます(写真③)。



ヒメシヤラの花(写真③)

■ ■ 編 発
 行 所
 F T E
 A X L 集
 (0 2 2) 総
 (2 2 7) 関
 2 2 1 東
 1 0 0 森
 . 1 1 林
 1 5 5 管
 5 8 理
 9 局
 課

頂上付近では高さ15mほどだったヒメシヤラも、防ヶ沢コースと、県道20号線が交差する付近では(写真④)、高さ30mを超え、その存在感と周りの緑とのコントラスト、そして花の時期には花が落ちて、辺り一面がまるで白い花の絨毯を敷いた様に見ることができます。



県道20号との交差点付近(写真④)

(東京神奈川森林管理署 広報広聴連絡官 齋藤 節男)